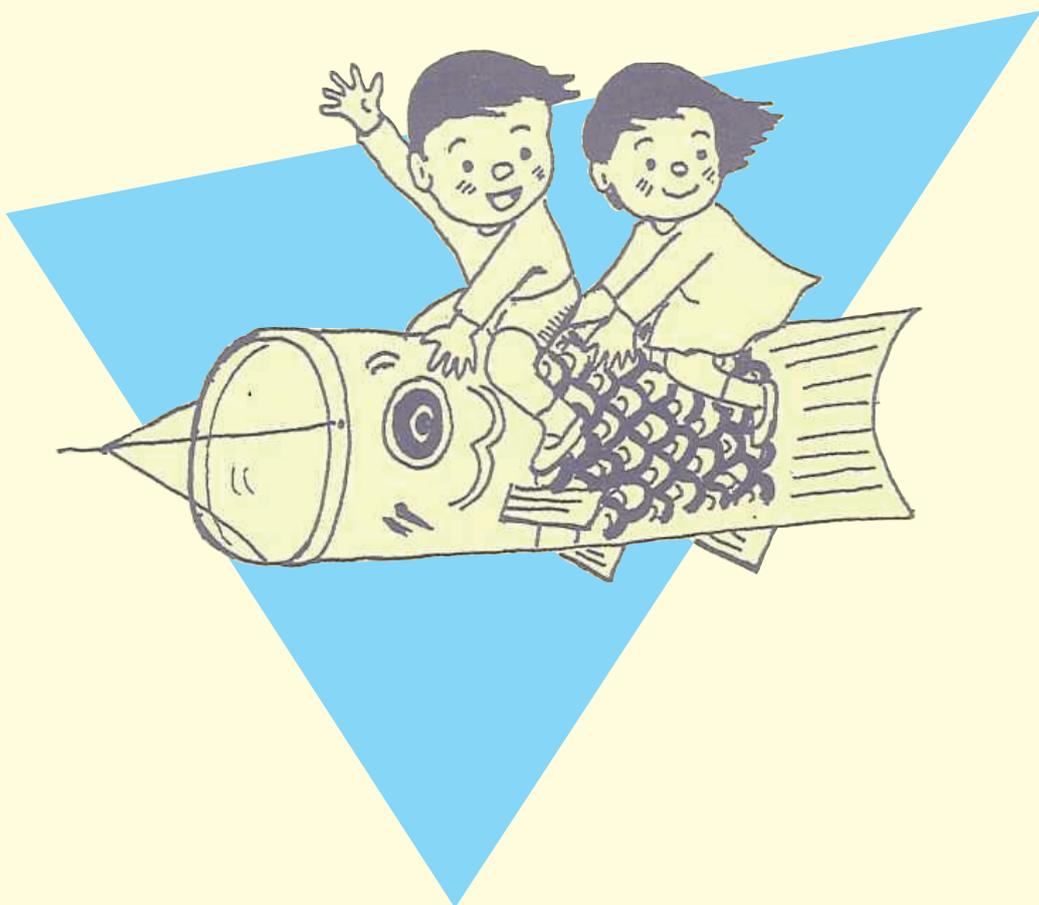


はじめよう!
おもちゃ図書館



おもちゃの図書館全国連絡会

はじめよう!

おもちゃ図書館

1. はじめに
2. おもちゃ図書館とは
3. おもちゃ図書館の歴史
4. おもちゃ図書館の開館準備
 - ＝どうやっておもちゃ図書館を作るのですか＝
 - (1) 最初はゆっくり・しっかり考えましょう
 - (2) 資金の確保について
 - (3) 場所の確保について
 - (4) ボランティアの確保・ボランティア活動の内容について
 - (5) おもちゃについて
 - ①おもちゃの選び方
 - ②手作りおもちゃについて
 - (6) ボランティア保険
5. おもちゃ図書館の開館
 - (1) おもちゃの整理・保管
 - (2) 消毒・修理
 - (3) 貸し出し
 - (4) 遊ぶ時のかかわり方
6. おわりに
 - 附記：おもちゃ図書館の活動事例



1. はじめに

「おもちゃ図書館があつたらいいな」

「おもちゃ図書館を作らない？」

「おもちゃ図書館を作りたい」

と考えるあなたに、おもちゃ図書館についての“あれこれ”をお届けしたいとこの冊子は作られました。活動を始めるにあたって少しでもお役に立てればと願っています。読み進めると「こんな事しなければいけないの？」「こんな事できるかな？」など悩まれる場面も出てくるでしょう。でも、一番大切なのは『作りたい』という今の気持ちです。

疑問を持ったらすぐくおもちゃの図書館全国連絡会>に連絡してください。一緒に考える仲間が待っています。おもちゃの図書館全国連絡会には“よっTOYでおもちゃ図書館”のビデオ・DVDもあります。活動している先輩の様子を見るのも、前に一步踏み出すきっかけ作りになるでしょう。 ※貸し出しもしています。

2. おもちゃ図書館とは

「障害をもつ子どもたちに、おもちゃの素晴らしさと遊びの楽しさを」との願いから始まったおもちゃ図書館も、今では「障害のある子もない子も共に楽しく、そして遊びを豊かに」と活動が発展し広がっています。

子どもは、楽しい遊びの体験を通していろいろな事を学び、身につけ成長していきます。しかし、子どもたちの中には、遊びの場にめぐり合う機会が少なかったり、自分から遊びを見つけたり組み立てたりする事が苦手な子どもたちもいます。そのような子どもたちにもおもちゃ遊びの楽しさを援助しながら、皆で共にゆったりと遊べる場所が「おもちゃ図書館」です。また、家でも楽しく遊べるようにと、貸し出しをしている館もあります。

主として公共施設を利用して、月1～4回（常設のところもある）開催し、ボランティアによって運営されています。



3. おもちゃ図書館の歴史

世界最初のおもちゃ図書館は、1935年大不況時代に、アメリカのロスアンゼルスでオープンしました。家が貧しい為におもちゃを買ってもらえない子ども達が10セントストアの店のまわりをぶらついたりおもちゃを盗んだりすることを知った学校長が、社会資源としてトイ・ローンシステムを作りおもちゃの貸し出しを始めたのが世界で最初のおもちゃ図書館です。障害児のためのおもちゃ図書館は、1963年スウェーデンで障害のある子どもの母親によってレコテク（レコ＝遊ぶもの・おもちゃ テク＝もって帰る・図書館）という名称で始まりました。1967年にはイギリスで、障害のある子どもの母親を中心にトイライブラリーが始められました。

日本では、1975年頃からおもちゃによる治療教育を目的としてレコテク（レコ＝遊ぶもの・テク＝持って帰る＝図書館）が試みられていましたが、国際障害者年を契機に1981年東京三鷹市に第1号館としてボランティアによって〔三鷹おもちゃの図書館〕が開館されました。その後、障害のある子どもたちには遊ぶ仲間と機会が不足していたという社会的要因・母親の高いニーズ・療育の専門家も遊びの重要性を認めボランティアとして協力したこと等により、おもちゃ図書館は全国的に展開されるようになりました。1983年には〔おもちゃの図書館全国連絡会〕が結成され、いろいろな団体や機関の支援を受けながら全国約500カ所のおもちゃ図書館と共に歩んでいます。

また、国際トイライブラリー協会（ITLA）の一員として、世界中の子どもたちと共に楽しいおもちゃ図書館を作っていきたいと願いながら活動しています。

4. おもちゃ図書館の開館準備

＝どうやっておもちゃ図書館を作るのですか＝

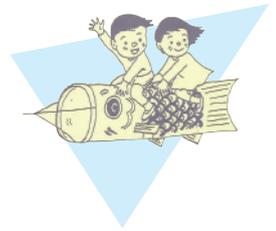
(1) 最初にじっくり、しっかり考えましょう。

<おもちゃ図書館をつくりたい>と一番最初に考えた時どんなイメージ・思いを描いたのでしょうか。<いっぱいおもちゃがあって、誰でもゆっくりくつろげる空間><子どもが喜ぶようなステキなおもちゃがあるところ><こんな活動も合せて出来たら・・・><楽しくボランティア活動のできるような場>等思いはドンドンふくらんでいったことでしょう。夢は大きく沢山持つことも大切ですが

《自分達は何故おもちゃ図書館を作ろうと考えたのか。どういうおもちゃ図書館にしていきたいのか。そこではどんな活動をしていきたいのか》

等「根っこ」になる部分をしっかり話し合ひましょう。根っこがグラグラしていると活動自体もグラグラしてしまい楽しい活動にはなりません。また根っこの部分を十分に話し合う事によって次の章に出てくる資金・活動場所・おもちゃ・いろいろな活動・ボランティアの参加等にも一つの方向が見えてきます。

おもちゃ図書館は政治や宗教に片寄ることなく地域のニーズに合せた自由な活動の場所です。こだわりのない自由な発想で「太い根っこ作り」をしておきましょう。



(2) 資金確保について

おもちゃ図書館を運営していくためには、第一に資金の確保を考えなくてはなりません。おもちゃ図書館の設置主体・運営主体によって資金の確保の方法は異なりますが、各おもちゃ図書館では、さまざまな工夫をしながら資金の確保に努めています。初めておもちゃ図書館を開設しようとする方に参考になる方法をあげてみました。

1. 補助金申請等

おもちゃの購入などには、まとまったお金が必要です。その時には、補助金を申請して資金を確保する事が有効です。

[1] 市区町村の社会福祉協議会に相談してみる。(助成団体を紹介してくれます)

[2] おもちゃの図書館全国連絡会に相談してみる。

(おもちゃの現物助成、又は購入資金の助成を受けられます)

[3] その他 民間の助成団体に直接申請をする。

例えばロータリークラブ、ライオンズクラブ地域の団体によるもの

2. バザー等の開催(地域活動と協働して)

3. 賛助会員の募集

おもちゃ図書館の活動に関心を持つ人々を賛助会員として募集し、運営資金を集める事もできます。

4. 寄付金の募集

※ おもちゃの図書館全国連絡会会員のおもちゃ図書館では、おもちゃ図書館の利用について原則としては無料となっています。

(3) 場所の確保について

おもちゃ図書館は、障害のある子ども、ない子ども共に集う場所ですから、誰もが気軽に来ることができるような会場を用意することが大切です。

スロープ、車イス、エレベーター、駐車場などが備わっているとよいでしょう。(例えば、公民館、福社会館、福祉センター、障害児者通園施設、コミュニティセンター等の公共の施設等)公共の施設を利用する場合は、おもちゃ図書館だけを優先的に利用することができない場合もあります。それぞれの施設の利用条件にあわせて手続き等が必要であったり、他の利用団体と共同で使用することもあるでしょうから、よく活動の趣旨を理解してもらうことが大切です。

公的な施設以外に、病院・学校・民間施設・教会や寺院等を利用する場合があります。片付けたおもちゃを収納する場所も考えておきましょう。



(4) ボランティアの確保・ボランティア活動の内容について

おもちゃ図書館の活動の特徴は、誰でもボランティアとして参加できることです。子どもから学生・子育て真最中のお母さん・お父さん・高齢者・障害のある方も趣旨に共感してくださる方は、誰でもかかわることができます。できるだけ地域の人々をまきこんで活動を進めることが大切です。

どのように呼びかけたらよいかかわからない方は、地域の社会福祉協議会・ボランティアセンター等に相談してみましょ。また、ボランティア募集を地域の広報紙に掲載したり、地域のPR紙へ掲載する方法もあります。

例えば、若いボランティアを受け入れたいと考えているおもちゃ図書館の場合

各地域で、社会福祉協議会が主催で夏休み期間を利用して、中学生から大学生、また、社会人を対象にした、サマーボランティアスクール（名称は、地域により異なる）等おこなっています。その時にボランティア体験の場として、受け入れてみては？

シニアボランティアの活動も期待できます

シニアボランティアとは、人生経験豊富な熟年世代のボランティアです。仕事を退職したり、あるいは子育ての終わった方々も、地域で活躍する場をもとめています。

この活動は、初めてボランティア活動に参加しようとする方々にとっても無理なく参加できる活動です。子どもにとって遊びは生きていく力を育む原点です。一緒に遊ぶことでボランティア自身も深い感動と大きな喜びを得ることでしょう。

時には、ボランティアをやりたいという人は来るのだが、なかなか継続してくれないといった悩みも聞きます。ボランティアの人間関係を大切にすることがとても大事になってきます。

楽しく活動を進める為には、開館前や後に自由に話合える場を持ったり、楽しい行事（クリスマス会・お祭り・バザー等）や、ボランティアの質を高めるための研修会・見学会など、皆で交流できるものを一緒に考え、企画していくことも大切になってきます。

おもちゃ図書館活動はグループでの活動です。お互いの違いや存在を認め合い、尊重することから活動は始まってゆきます。



おもちゃ図書館のボランティアにはこんな活動がまっています。



いろいろな活動が書かれていますが、子どもたち一人ひとりをありのままに受け止め、ゆったり過ごせる遊びの場・出会いの居場所作りのお手伝いをしてゆきましょう。

こんな活動へも広がります

☆ レジャーライブラリー活動：

おもちゃ図書館で楽しく遊びながら育った子どもたちはその成長に伴い遊ぶ活動から余暇活動へと活動の範囲は広がってゆきます。その為生活の質を高めるためのいろいろな取り組みが必要になってきます。

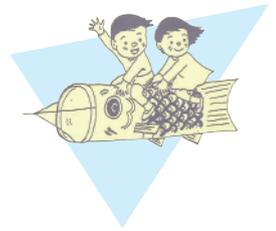
おもちゃで遊ぶおもちゃ図書館に対して楽しい余暇活動を提供する活動です。

☆ 移動おもちゃ図書館：

病院・老人センター・児童館など地域の様々な施設に出向いて遊ぶ活動です。また、地域のイベントに参加して、おもちゃ広場等を開く活動も含まれます。

☆ 出前おもちゃ図書館：

図書館に来ることのできない子どもたちにおもちゃを届ける活動です。



(5) おもちゃについて

①おもちゃの選び方

「障害のある子のために特別なおもちゃは必要でしょうか」という質問を受けますが、決して特別なおもちゃは必要ではありません。子どもにとって良いおもちゃであれば、障害をのある子どもにとっても良いおもちゃなのです。細かい指の動き等が難しい子どもの場合は、パズルのつまみを大きくしたり、電動のおもちゃの場合にはスイッチを工夫する必要もあるでしょう。また目や耳の不自由な子ども達に配慮した共遊玩具といわれるおもちゃもあります。盲導犬マーク・うさぎマークが箱についています。

おもちゃを選ぶ時に留意するとよい点をあげてみましょう。

- 1 よい音…やさしい音・きれいな音・心地よい音・音程のしっかりしている音など
- 2 きれいな色・配色…木目の美しい白木のおもちゃも忘れてはいけない素材です
- 3 動きが楽しい
- 4 適当な重さ…重さ(手ごたえのあるもの)は持ったとき、手の感覚を刺激します。
- 5 形が美しく、手にやさしい
- 6 意外性…おや？あれ？と不思議な動き・アクションがかくされているもの
- 7 操作しやすい・扱いやすい
- 8 安全性が高い
- 9 壊れにくい…壊れても修理しやすい
- 10 衛生面での管理がしやすい…消毒等に配慮できるもの

②手作りおもちゃ

市販されているおもちゃだけでなく身の回りにある物(布・木・ペットボトル・ダンボール・牛乳パック・折紙等)を工夫しておもちゃを作ることも楽しい活動になります。

(6) ボランティア保険

おもちゃ図書館の活動中に、もし事故が起きたら…子どもたちの遊びは豊かで際限もなく広がります。大人がう〜んと感心することもしばしばです。おもちゃ図書館へ来る子どもたちは本当に一人ひとり違った個性と体力を持っています。

何が起こるか分からないことを想定して、ボランティア活動保険への加入をおすすめします。また、おもちゃ図書館が企画・実施する様々な行事についてはボランティア行事保険もあります。

☆ボランティア保険の内容、補償金額、掛金、加入方法などの詳しいことは、地域の市区町村社会福祉協議会にお問合せ下さい。地域により内容その他について異なりますので、直接確認して下さい。

☆また、活動実態に合わせ、毎年保険内容も変わりますのでご注意下さい。



5. おもちゃ図書館の開館・・・＝開館時の様子＝

おもちゃ図書館の運営は、設置・運営主体・開館場所・子どもたちの様子・おもちゃの数・ボランティアの考え方等で違ってよいと思います。「これが一番です」という答えはありません。

おもちゃの置き方についても例えば・・・

1. おもちゃを棚・つくえ・床などに並べて置く。
すぐに手にとって楽しみながら遊ぶことができます。
2. おもちゃの写真を撮ってアルバムを作る。
アルバムを見ながら親と子で、またボランティアも加わり会話をしながらおもちゃ選びができます。

等がありますが、子どもたちやボランティアにとって活動しやすいやり方が一番です

皆で関わりながら遊べるおもちゃ(クッキングセンター・ボールプール・積み木など)を部屋の隅や中央に出しておくのも良い方法でしょう。いろいろな年齢の子どもたちが様々に関わりながら遊ぶうちに遊びは発展してゆきます。また、床が固い場所などでは、寝転んでもよいように、マットを敷くなどの工夫も必要となるでしょう。子どもたちが安心して遊べる場・利用者の方が来てよかったと思える場になるよう考えながら取り組んでみましょう。

(1) おもちゃの整理

おもちゃの整理については様々な方法(例えばパソコンを使うとか・カード方式)があります。どれをとっても時間と人手が掛かります。限られた時間内で活動しなければならぬおもちゃ図書館の場合には重荷になってくる場合も出てきます。ここでは、原簿になる〈整理ノート〉をお勧めします。

《整理ノート》これだけは必ず作りましょう。ノートには、おもちゃの名前・個数・製造元・購入日・こわれているか・修理中・破棄・部品不足の有無等を記入します。また、おもちゃに付いてくるパンフ等もファイルして置くと後々役に立ちます。

おもちゃには細かい部品も付いています。部品の管理には気を配りましょう。ジップの付いたビニール袋・小さい布袋等に入れておく方法もあります。

また、購入したおもちゃを分類したいと考えた時、こんな様に考えみてはどうでしょうか。



おもちゃは、箱に記入されている年齢にとられること無く楽しめます。おとなが幼児用とされているおもちゃで楽しく遊んだり、また遊ぶ事で心が癒されたりする時もあります。おもちゃの持つその様な特性を考えて「年齢別」にこだわらない方がよいですし、使う方の気持ちを考えておもちゃを分類する言葉にも気を付けます。

また、おもちゃには色々な機能や使い方があるのでどの様に分類したらよいか戸惑う時もあります。その時は、使う子どもたちの様子を考えながら分類していけばよいのではないのでしょうか。

(注) 業界の自主規制の玩具安全基準（STマーク）は、14歳以下を対象に対象年齢により安全基準の設定が異なります。箱に記入されている対象年齢は、安全の観点から考えた時は重要な事項です。

分類例

- A：手にやさしいおもちゃ
主として乳幼児用とされている物
 - B：動きをたのしむおもちゃ
自動車・汽車等
 - C：ゲームでわいわい
皆で遊ぶとより楽しいおもちゃ
 - D：音との出会い
木琴・太鼓・キーボード等音を楽しむおもちゃ
 - E：考えながら遊ぶおもちゃ
一般的に知育玩具といわれる物
- 細かく分類する方法もありますが、後々の整理を考えて大まかな方がまとめやすいように思います。

(2) 消毒・修理

☆ 消毒：

最近の布おもちゃは、丸洗い出来る物も多くなりましたが、丸洗い出来ない物は、太陽に当てる・拭きとる（授乳用の洗浄綿・薄めたミルトン液等で）・水で洗う等が考えられます。いずれにしても〈注意書き〉を読み指示通り取り組む事が大切です。おもちゃをなめる子どももいますので、ドライクリーニング・薬品の使用には注意しましょう。

☆ 修理：

修理をたのむ前に、おもちゃは何故壊れるのか、その原因を調べてみましょう。遊ぶ前に説明書を良く読むことも大切です。無理な遊び方をすると壊れる原因にもなりますが、子どもによっては力のバランスがわからず強くたたいたり、嬉しくて投げたり思いがけない使い方をしてしまう場合もあります。おもちゃ図書館のボランティアも簡単な修理が出来るようになれば良いと思いますが、直接製造元の消費者窓口に相談する方法が（送料が掛かります）近道でしょう。また、近くに修理ボランティア（トイドクター）が見つからない時はおもちゃの図書館全国連絡会・地域の消費者相談窓口にご相談下さい。

おもちゃは湿気をさらいます。本体の中のゴミ（湿気を吸う）にも注意が必要です。おもちゃを収納する時は必ず電池を抜く習慣もつけましょう。（電池が劣化して液もれする場合があります）



(3) 貸し出し（利用者の記録）

貸し出しには個人情報にふれる部分も出てきます。取扱いには注意し〈書きやすいフォーマット〉を検討しましょう。基本的には〈月日・誰が何を借りたか・連絡を取りたい時にはどうすればよいか〉が分かれば十分です。借りずに帰った人がいた場合は〈来館者〉として人数だけ日誌に記入すれば今後の活動の資料にもなります。

(4) 遊ぶ時のかかわり方

おもしろいから、楽しいから子どもたちはおもちゃ遊びが好きになるのです。子どもたちが出してくるサインを柔らかな感性で受け止めながら一緒に楽しむ姿勢が求められます。

- 1、目から入る刺激は大切です。
何度もやって見せてあげましょう。物をしっかり見る力や、正しく模倣する力もやしません。
- 2、誘いこみ 遊びに誘う
触ってみたい・遊んでみたいという気持ちを引き出すために、にこにこ少しオーバーに表現しながらの言葉かけも大事です。
- 3、手をかしながら
これは教える事ではありません。持っている力で遊ぶ事がうまく出来るように工夫しながら手助けをする事です。その為には子どもの力で十分に組み立てるものから入ってゆくとよいでしょう。思うように遊べなかったり、ガッカリするよりも「やったー」という満足感・達成感を大切にしてください。失敗してしまった時はなくさめてあげましょう。
- 4、共感する事の大切さ
ほめることはとても大切なことです。子どもの気持ちに共感し認め、ほめられる事で自分からやってみよう、やってみたいという気持ちを引き出すきっかけが作られます。

障害のある子どもの場合には、おもちゃの扱いがわかるまで・楽しさを見つけるまでに時間がかかったりする場合があります。また、飽きた・好き・いや等自分の気持ちを伝える事が難しい時もあります。子どもの様子を見ながら、ゆっくり待ってあげて、目線を共にしながら遊ぶ喜びを一緒に分かちあっていきましょう。お子さんの日頃の様子なども保護者の方から聞くことも大切です。

“この間はあんなに遊んでいたのに今日は？”と思われる日もあるでしょう。子どもによっては、その日の周りの様子や、季節、天候、気温等によって遊びに入ってゆけない場合もあります。子どもの様子に気を配りながら、子どもにとって負担にならない様に見守ってゆく態度も時には必要です。



6. おわりに

おもちゃ図書館について、何か一つのイメージがつかめたでしょうか？
これからは「あなた方」の「おもちゃ図書館作り」が始まります。

附記として、活躍中のおもちゃ図書館のいくつかを紹介します。近くにおもちゃ図書館があれば是非訪ねてみて下さい。先輩達の生の声は、何よりの力になります。また活動の参考になる資料として以下のような物があります。ご活用下さい。

- ・2007年度おもちゃ図書館実態調査報告 — おもちゃの図書館全国連絡会発行
- ・育成ハンドブック — 財団法人日本児童福祉協会編集
- ・ごぞんじですかおもちゃ図書館 — 財団法人日本児童福祉協会編集

相談は～ おもちゃの図書館全国連絡会

「おもちゃ図書館を始めたい」「地域のおもちゃ図書館がどこにあるのか知りたい」「ボランティアがしたいのですが」「どんなおもちゃをえらんだらよいのですか」など知りたい事・活動を続ける上で疑問に思った事・困っている事がある時は「おもちゃの図書館全国連絡会」にご相談ください

特定非営利活動法人おもちゃの図書館全国連絡会

〒116-0001 東京都荒川区町屋2-7-5
電話 03-6807-8813
FAX 03-6807-8813
E-mail renrakukai@toylib-jpn.org
火曜日～金曜日 10時～17時



設置・運営がボランティアグループ おもちゃライブラリーメルヘン設立のきっかけ

今から25年程前に、アフリカ難民餓鬼のニュースが、テレビや新聞などで毎日のように報道されていました。飽食の日本にいて子供達が本当に思いやりのある子供に育てていけるだろうか？という不安がよぎりました。平成元年、子供の傍らにいる母親が、まず何か行動しましょうとメルヘンを設立しました。そんな時市社協主催の〈布おもちゃ作り講習会〉があり、出来上がった布おもちゃを持って県立小児療育センターを訪問し、これが体の不自由な子供達との出会いのきっかけになりました。その後、子供達に喜んでもらえるおもちゃ作りの重要性に気づき現場の先生方のアドバイスを入れた布おもちゃ作りに取り組みました。

平成7年に県社会福祉センターで、移動おもちゃライブラリー活動を開始し、平成9年に常設のおもちゃライブラリーメルヘンを開館しました。毎年恒例行事クリスマス会には、今でも二十歳をすぎた青年が遊びに来てくれます。また、平成5年からは、地域の小学校のクラブ活動で布おもちゃ作りを手伝ってもらい体の不自由な子供達のことを理解するのに役立っています。平成10年頃から体の不自由な子供達のことを理解するのに役立っています。平成10年頃から小学生や高校生がボランティアとして、交流会に参加し一緒に遊んでもらえるようにもなりました。開館日にはいろいろな子供達が聞こえて、楽しいふれあい居場所づくりにも、ちょっぴり成果が出始めたようです。また県立大学の依頼で海外から研修生の受入れも7年目に入り、これも成果のひとつかもしれません。

今年9月に県知事から表彰していただき、〈大家族ふれあいの場〉を新たな目標に活動を継続していきたいと考えています。

福井県 おもちゃライブラリーメルヘン 代表 浦瀬 由美子





設置・運営が社会福祉協議会 四日市市おもちゃ図書館

平成2年、四日市市総合会館の一室に、障害のある子もない子も、おもちゃを使って仲よく遊ぶ交流の場としておもちゃ図書館が設置され、四日市市社会福祉協議会が運営することになりました。運営のお手伝いボランティア「よっちゃんグループとして、市社協職員と共に開館準備に入り、活動を開始しました。

日曜祝日を除く毎日、十時から十五時まで開館し、ボランティアは、水木土曜日を担当月火金曜日は市社協職員が担当しています。

障害児通園施設から毎月クラス別に集団来館があり、学園ではできない体験ができ、子どもたちにも変化が見られるということで来館日を楽しみにしてもらっています。障害児と地域の子どもの交流の場、障害児を保育している園、子育て支援地区など、要請に応じて出向き、交流の輪を広げています。

年に一度のおもちゃ図書館まつりは、手づくりの人形を使った劇を楽しみにしてもらっている行事です。その他、手づくりの布絵本やおもちゃの作製、障害児におもちゃの貸し出し、月末のおもちゃ消毒点検、定例会には市社協職員の参加を得て、活動日に体験したことの意見交換などを行っています。

今後も、来館者に楽しく利用してもらえる様、市社協のご理解とご協力を頂き、楽しく活動を続けていきたいと思ひます。

三重県 四日市おもちゃ図書館 代表 早川 千鶴子





設置が施設、運営がボランティアグループ おもちゃとしょかん「もくば」

おもちゃとしょかん「もくば」が別府発達医療センターの中にあるのをご存知ですか。障がいのある子どものお母さん達のご協力で昭和63年5月に発足してから20年の年月が過ぎようとしています。今はボランティアによって運営されています。

センターの改築に合わせて場所の引越しを繰り返したり、休館したりしましたが、現在はセンターの一室で毎週水曜日に開館しています。

センター中のひばり園や市内の子どもさんが遊びに来ます。

音や動きを楽しむおもちゃ・知育遊び・ゲーム遊び・布のおもちゃ・絵本・エプロンシアター等をそろえています。遊んだ後には好きなおもちゃの貸し出しもしています。(2週間を目安に)

子ども同士・親同士お仲間づくりの場所になることを願って活動しています。

大分県 おもちゃとしょかん「もくば」 代表 荒金 カツ

